

21149 アシッドラック J リキッド

初版作成日 : 2023/7/5

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : アシッドラック J リキッド

製品番号 (SDS NO) : 21149

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 日本全薬工業株式会社

住所 : 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1 丁目 2 番 6 号 駿河台ビル 2F

担当部署 : 事業開発部

電話番号 : 03-5282-2483

緊急連絡先電話 : 024-945-2300(代表)

本製品に関するその他の情報については、別添資料をご参照ください。



安全性データシート

アシッドラック J リキッド (Acid Lac J Liquid)

1. 製品及び会社情報

製品名	アシッドラック J リキッド (Acid Lac J Liquid)
用途	有機酸混合飼料
製造業者	Kemin Industries (Asia) Pet Ltd.
住所	12 Senoko Drive Singapore 758200
輸入先国	シンガポール (Kemin Industries (Asia) Pet Ltd.)
住所	12 Senoko Drive Singapore 758200
輸入業者	ケミン・ジャパン株式会社
住所	東京都千代田区五番町 12 番地 五番町 K ビル 4 階
緊急連絡先	ケミン・ジャパン株式会社
	電話 : 03-3239-2501 Fax : 03-3239-2502

2. 危険有害性の要約

プロピオン酸			
GHS 分類	物理化学的危険性	: 引火性液体 (本製品は、粉末であるので、該当せず)	: 区分 3
		: 急毒 (経皮)	: 区分 3
		: 皮膚腐食性・刺激性	: 区分 1
		: 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激	: 区分 1
		: 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分 3
			(気道刺激性)
		: 水生環境有害性 (急性)	: 区分 3
ギ酸			
GHS 分類	物理化学的危険性	: 引火性液体 (本製品は、粉末であるので、該当せず)	: 区分 3
	健康に対する有害性	: 急毒 (経皮)	: 区分 4
		: 急性毒性 (吸入)	: 区分 4
		: 皮膚腐食性・刺激性	: 区分 1
		: 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激	: 区分 1
		: 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分 1
		: 水生環境有害性 (急性)	: 区分 3

ポリオキシエチレンソル ビタン脂肪酸エステル	安衛法非該当
着香料	安衛法非該当
乳酸	安衛法非該当
クエン酸	安衛法非該当
絵表示	 

3. 組成及び成分情報

混合物製剤（固体：粉末）			
成分名	CAS 番号	化審法番号	含量
プロピオン酸	79-09-4	2-602	<30%
ギ酸	64-18-6	2-670	<10%
ポリオキシエチレンソルビ タン脂肪酸エステル	9005-67-8		
着香料			
乳酸	79-33-4		
クエン酸	77-92-9		

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは、医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐ。無理に吐かせない。気分が悪いときは、医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類を全て脱ぎ皮膚を流水/シャワーで洗う。多量の水と石鹼であらう。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は医師の診断/手当てを受ける。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受ける。
応急処置施設	洗眼器、安全シャワー、通常の洗面所設備を備える。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	二酸化炭素、乾燥消火剤、泡状消火剤を使用する。
特有の危険有害性	火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
消火を行う者の保護	防火服/防災服/耐火服を着用する。断熱手袋/保護眼鏡/保護面を着用する。消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。
特有の危険有害性	可燃性固体。火に晒されると燃焼する。十分な量は、空気と可燃性/爆発性の混合物

	を形成することがある。
分解温度	不明

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	
	飛沫を吸入しないこと。回収が終わるまで十分な換気を行う。適切な保護具を着用する。関係者以外は近づけない。風上から作用し、風下のヒトを退避させる。
環境に対する注意事項	
	上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。下水、排水中に流さない。
回収、中和並びに封じ込め及び浄化の方法/機材	
	こぼれた材料は集めて、容器に回収する。
二次災害の防止策	
	漏出物を回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意	・着火源の近くで使用しない。 ・適切に換気された作業場を使用する。 ・飛沫の吸入や皮膚、眼への接触を避ける。 ・取り扱い時には適切な保護手袋、保護衣及び眼、顔面用保護具を着用する。 ・作業後の手洗い、飲食や喫煙、トイレ施設を使用する前は必ず手を洗う。
保管上の注意	・密閉容器に保存する。 ・定期的に破損、漏出等の以上のないことを点検する。 ・酸化性物質と混触させない。 ・熱及び発火源、直射日光、湿気を避ける。 ・静電気放電に注意し、適切なアースをとる。 ・乾燥した涼しいところに保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

・最良の衛生管理手順に従う。 ・防御メガネ、手袋、作業衣等を着用し、適切な個々の防御対策をとる。 ・作業中は、飲食、喫煙は行わない。 ・作業終了後、手を洗う。 ・医師による定期的な診断を受ける。	
生物学的限界値	特になし。
適切な技術的対策	十分な喚起を行い、自然換気が十分でない場合は、局所排気装置が必要である。
呼吸器の保護	交換可能な粉塵/粒子フィルターを備えた許可済みの呼吸器を使用する。
目の保護	サイドシールド付き安全眼鏡、ケミカルゴーグル等を着用する。

手の保護	PVC 又はニトリル等の不浸透性の材質の手袋を着用する。
身体保護	適切な保護作業服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	茶色の液体
臭気	酸臭
分解温度	不明
融点	不明
沸点	不明
水への溶解性	水と混和する
pH (10%溶液)	0.2～1.2
蒸気圧	不明
比重	1.00～1.20
引火点	85℃
燃焼性	不明
可燃性限界値	不明
爆発特性	不明

10. 安定性及び反応性

反応性	相容れない物質と反応する。
化学的安定性	通常の貯蔵及び取り扱い条件下では安定である。
避けるべき条件	熱及びその他の発火源となるもの。
相容れない物質	強酸化剤、強アルカリ。
危険有害分解生成物	火災時に、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物を含む有毒ガスや刺激性の煙霧や気体の発生する可能性がある。
危険な重合	知られていない。

11. 有害性情報

ギ酸	
急毒 (LD50)	ラット 経口 700mg/kg ラット 吸入 3929ppm
皮膚刺激	腐食性あり
眼刺激	腐食性あり
プロピオン酸	
急毒 (LD50)	ラット (雌)、経口 351mg/kg ウサギ、経皮 500mg/kg
皮膚刺激	腐食性あり

眼刺激	腐食性あり
飲み込んだ場合	消化管に刺激を与え、吐き気や嘔吐等の症状が出る可能性がある。
吸入した場合	呼吸器系を刺激する可能性がある。
皮膚	軽度の皮膚刺激を引き起こす。皮膚に接触すると、発赤、かゆみ、腫脹を起こすことがある。
目	目に障害を与える。入った場合、しみる、かすむ、激しい痛み、火傷、壊死、失明の可能性はある。
呼吸器感作性	考えられない。
皮膚感作性	考えられない。
生殖細胞変異原性	危険性はないと考える。
発がん性	危険性はないと考える。
生殖毒性	危険性はないと考える。
STOT（単回暴露）	呼吸器系に刺激を与えることがある。
STOT（頻回暴露）	特定の標的臓器に毒性を引き起こすことは考えられない。
吸引性呼吸器有害性	有害性はないと考える。

12. 環境影響状況

ギ酸	
・水生生物に有害	
プロピオン酸	
・水生生物に有害	
生態毒性	不明
残留性・分解性	不明
移動性	不明
生物蓄積性	特にない。
環境保護	水路、排水溝、下水道に流入することを防止する。

13. 廃棄上の注意

製品及び容器	
環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分する。	

14. 輸送上の注意

国連規則で、輸送のための危険物として分類。	
国連番号	1760
輸送名	プロピオン酸・ギ酸含有

15. 適用法令

ギ酸（安衛法非該当）	・ 引火性液体（区分 3） ・ 急性経口毒性（区分 4） ・ 急性経皮毒性（区分 4） ・ 皮膚腐食性・刺激性（区分 1） ・ 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激（区分 1） ・ 特定標的臓器毒性（単回暴露）（区分 1） ・ 水生環境有害性（急毒）（区分 3）
プロピオン酸	・ 引火性液体（区分 3） ・ 急性経皮毒性（区分 3） ・ 皮膚腐食性・刺激性（区分 1） ・ 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激（区分 1） ・ 特定標的臓器毒性（単回暴露）（区分 3：気道刺激性） ・ 水生環境有害性（急毒）（区分 3）

16. その他情報

作成日	2023 年 4 月（Kemin 社の SDS をもとに作成）
参考文献	1 Globally Harmonised System of Classification and labelling of Chemicals (GHS). 2 Classification and Labeling Inventory database by European Chemical Agency. 3 United Nations Recommendations on the Transport of Dangerous Goods (UNRTDG). 4 日本産業衛生学会「職業性暴露限界値の勧告（2012-2013）」（日本産業衛生学会） 5 Handling Chemical Safety （化学安全性ハンドブック） 6 ギ酸（安全データシート） 7 INRS・Fiche Toxicologique (toxicological sheet) （INRS・魚毒性（毒性シート）） 8 Patty・Industrial Hygiene and Toxicology （Patty・産業衛生と毒性学） 9 化学品を取り扱う事業者の方へ —GHS 対応— 化管法・安衛法・毒劇法におけるラベル表示・SDS 提供制度

記載内容の取扱い

本安全性データシートの情報は、信頼性があると考えられる資料から入手されたものですが、その正確性に関しては、明示あるいは黙示を問わずいかなる保証をなすものではありません。本製品の取扱い、保管、用途又は廃棄の条件又は方法については、弊社の責任の範疇を超え、また、弊社の知識の範囲外であると考えます。これらの理由から、本製品の取扱い、保管、使用又は廃棄に起因して又は何らかの形で付随して生じた損失、損害又は費用については、弊社が責任を負うものではなく、ここに責任の否認を明記します。本安全性データシートは、本製品のみを対象として作成され、使用するものです。他の製品の一部として本製品を使用する場合、本安全性データシートは適用されない場合があります。